

あすなろ

第 16 号

発行 弘前大学教育学部
同窓会
〒036 弘前市大字文京町 1
TEL. 0172 (36) 2111 代表
編集事務局
弘前市大字豊原一丁目 3 の 3
弘前市立第三中学校内
TEL. 0172 (32) 2361



年頭にあたって

同窓会長
木村清之助

新年早々戦後最大の阪神大震災で幕を開けた感のある平成七年を迎えましたが、会員の皆様にはお変わりなくご健勝であることを祈念いたします。

昨年四月、かねてからの念願であった大学院教育学研究科（修士課程）が開設され、六月二十九日に盛大な記念式典が挙行されました。今後より一層充実した教員養成が期待されます。また開設まで大学本部や学部教官、事務官が一体となってお力されたことに対して、会員の皆様と共に深く敬意を表したいと思います。

七年度からは教育学部と附属幼小中学校の各校舎の改築が具体化されるようです。社会の要請にこたえ得る教員はもろんのこと、新しい教育を創造し、リードする教員を養成するためにも校舎の近代化が待たれるところです。同窓会としてもできる限りの支援をしていかなければならないと思います。

同窓会の事業の一環である「会員の人材活用」についてですが、この特別講義は学生から大変好評を得ております。今年度も教員採用が全国の教員養成大学の中で第三位にランクされたとのこと、ご協力下さいました先生方に厚くお礼申し上げます。

昨年十二月、本会の前会長で、会の財政や組織の確立などに大きなご功績のあった太田薫先生が急逝されました。会員の皆様と共に衷心より哀悼の意を表します。教育問題が社会問題として大きくクローズアップされている昨今ですが、教育に携わる皆様には、教育の原点を見失うことなく、ご健闘されるようお祈りします。



年頭に当たって

教育学部長 水野 裕

弘前大学教育学部同窓会会員の皆さん、新年おめでとうございます。皆さんにはさわやかな新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年はわが教育学部にとり長年の懸案であった大学院教育学研究科(修士課程)の設置が実現した記念すべき年でありました。この設置については長年にわたる同窓会からの物心両面の御援助の賜物と深く感謝しております。今後は残った専修の設置に向け、なお一層の努力をし、一日も早く全専修の設置完成を目指すつもりであります。

今回設置されたこの大学院には、現職教員に対して在学期間や入試科目について特例措置が認められています。第一期生には七名の現職教員が含まれており、先輩である現職教員と学部学生の相互交流の中から、学部授業では習得できない好ましい教育効果が生じています。同窓生の現職教員の皆さんにこの制度をどうん利用していただき、後輩に活力を入れていただければと思っております。

次に、教育学部学生の教員への就職状況ですが、児童生徒数の減少に伴い教員採用枠が全国的に縮小する中で、弘前大

学教育学部は全国四十九の国立教員養成大学・学部の中で第三位の就職率となっています。これもひとえに同窓会からの御援助のお蔭と感謝しております。

なお、教育学部では目下、教養部の廃止に伴う全学的改革(特に理工学部設置)への協力と、進展する生涯学習社会に積極的に対応するため「新課程」の設置が課題となっております。

また、もう一つの課題は学部および附属校舎の建物の新築があります。いずれも初期に完成した建物は、すでに三十年を経過し老朽化がはげしいため、早急に解決しなければならぬ課題です。全学の学部改革との関連で、建設場所や規模などもまだ流動的な点がありますが、一日も早い完成を目指すつもりであります。

以上のべましたように、教育学部の将来にはまだ色々な課題が山積しております。同窓会にはまた色々御援助・御協力をお願いすることになると思っております。何卒よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、同窓会の皆さんのこれからのますますの御活躍を祈念して新年の挨拶いたします。

同窓会・県教委

定例懇談会

平成七年度
教員採用試験結果

同窓会の事業の一つである県教育委員会との定例教育懇談会が、平成六年十一月二十五日(金)午後四時から青森市新町の青森グラント・ホテルで行われた。今年度は、午後二時に教育学部前を出発し交通渋滞もなく定刻前に会場に到着した。

県教育委員会から柿崎学務課長、久保総括主幹義務教育班長のお二人のご出席を願ひ、同窓会側からは木村会長及び水野名誉会長(教育学部長)それに、副会長、支部長、評議員、事務局の計九名が出席し、教員採用に關しての情報交換や今後に望まれること等について話し合った。

木村会長の挨拶の後、自己紹介があり和やかな雰囲気の中で情報交換が行われた。柿崎学務課長からは、「教育界は変革期を迎えております。管理職の六割強が弘大教育学部出身です。優れた実践力をもった人材が必要であります。新しい時代に若手教員を育て、バックアップできれば幸いと思ひます」というお話があった。

続いて、久保総括主幹義務教育班長から「採用試験の結果は、表のようになっております。昨年も過去最高、今年も過去最高と受験生がふえています。採用見込数が四百名と過去最も少なく、五・六倍になりました。これも最高です。今回は

小学校四・四倍、中学校五・五倍、高校七・五倍、特殊学校五・三倍、養護教諭八・八倍となりました。

	平成 5	平成 6	平成 7
受験者全体	1,788	2,019	2,256
弘前大学	347(19.4%)	368(18.2%)	399(17.7%)
教育学部	271(15.2%)	274(13.6%)	303(13.4%)
受験者全体	521(29.1%)	406(20.1%)	407(18.0%)
弘前大学(弘大内合格率)	173(49.9%)	135(36.7%)	132(33.1%)
教育学部(学部内合格率)	150(55.4%)	106(38.7%)	107(35.3%)
小学校	99	66	63
中学校	37	28	36
高等学校	3	5	2
養護教諭	11	7	6

今後に望まれる事項として、一人前の社会人として常識に富んでいる人、責任感の強い人、また子供達の間で教育的な関係をつくれる人、何といつても子供の気持ちの動き、スキミングを深める方法をわきまえている先生を欲しいと思ひます。それから常に自分の専門性を極めていける人、このことが地域の人に信頼される要因の一つと思ひます。これらのことを念頭に入れて面接をしておりま

美術科教室・昔と今

美術科教室 岡田敬司

卒業生の皆様、いかがお過しですか。私が赴任したのは昭和五十一年十月です。今年で十九年目を迎えることになりました。当時と比べると教室教官の構成は大きく変わりました。

絵画は、故川村精一郎先生から、岩井康頼先生へ。今井治男先生（現・金沢大学教育学部教授）から、故鈴木信雄先生を経て、伊藤隆先生へ。

彫塑は、三田村峻右先生（現・筑波大学芸術学系総合造形科教授）から私へ。構成は、横山智也先生（現・秋田大学教育学部教授）から、杉山直樹先生（現・兵庫教育大学助教授）を経て、村上善男先生へ。村上先生は今年度より、教育学部附属幼稚園の園長もつとめておられます。

美術科教育は、石原英雄先生（現・秋田公立美術工芸短期大学学長、四月より開学予定）から、故内田義夫先生、寛敏生先生を経て、星邦男先生へという具合に、めまぐるしいと言える程、大きく様変わりいたしました。

現在は五名の教官が一致協力して美術科教室を活力のある魅力溢れる教室にすべく努力しております。

秋には、一泊二日の研修旅行を行なったりしておりますが、何と言っても最大

の行事は卒業制作又は卒論の研究発表展示だろうと思います。

毎年度のことでありますが、前年度より少しでも良いものにしたいたい教官側は考え、学生達もこの期待に応えるべくつとめております。

その具体的な現れとして、カリキュラムの改正があり、一年生から専門科目の基礎が履修できるようになったということが挙げられます。これにより専門への意識が一年早められ、卒制、卒論への取り組方の姿勢の高まりと深まりが従来より一層期待できるようになりました。

さて、教育学部の大学院教育学研究科修士課程は、今年度より一部達成されましたが、美術科教室は残念ながら教官定員の不足等の理由で後発組となっております。今後の見通しも厳しいものがありますが、同窓会の皆様のご支援をいただきながら皆様のご期待に応えるべくつとめて参りたいと思っております。

では、卒業生の皆さんも益々お元気で活躍ください。

（平成七年二月記）

各科教室だより

その1

技術科教室だより

技術科教室 志村元

同窓生の皆様、いかがお過しですか。技術科教室は木材加工、金属加工、機械、電気、栽培、情報基礎のそれぞれ独立した六領域と技術教育について、五名の教官と一名の技官で教育と研究を行っています。

木材加工と技術教育担当の佐藤武司先生は津軽塗についての教材化に意欲的に取り組んでいます。金属加工と機械担当は志村元。機械と情報基礎担当の外川譲二先生はコンピュータグラフィックスについても学生の指導に尽力しています。電気と情報基礎担当の三岡洗先生は充実した教育のため、単位取得に難儀をする学生もいるようです。栽培と技術教育担当の肥田野豊先生は新しい学問領域であるバイオ関係の研究に情熱的に取り組んでいます。実験、実習担当の照井透技官は成人式をむかえたばかりの好青年です。

私が赴任してから、川守田孝吉先生と佐藤徳吉先生が定年退職された後、三岡先生と肥田野先生が赴任されました。なお、

佐藤徳吉先生は昭和六十二年にお亡くなりになりましたが、川守田先生は盛岡市にてお元氣にお過しですのでご安心ください。また、中畑武夫技官、長尾周三技官、小山喜代勝技官は定年退職後も元氣にご活躍しております。

当教室では川守田先生の発案により昭和四十五年より弘前大学技術教育学会が誕生しました。平成五年より青森県技術教育学会と名称変更し広く青森県の技術教育の向上、発展に寄与することを目的として年一回の研究発表会を開催しておりますと共に学会誌の発行もしています。同窓生を含め多数会員として活躍しております。

教官持回りでは毎年、研修旅行をいたします。青森県内はもとより遠くは仙台の工場施設の見学により教室では学べない貴重な体験をすると共に、学生とは裸の付き合いを続けています。また、恒例の収穫祭も毎年十一月中ごろ行っておりまして同窓生の皆様にはお出かけいただければと思います。さらに、技術科専攻の学生は男性だけでしたけれども、現在は三年生に二名と二年生に一名の女子学生が在籍し、男子学生と共に勉学に熱心に取り組んでいます。それでは、お元氣でご活躍ください。

保健体育教室は今

保健体育教室 佐藤 光毅

同窓の皆様方におかれましては、ますます元氣にご活躍のことと拝察しております。さてこのたびは教室からの便りというところで、現在の教室の状態を中心に紹介したいと思います。

まずはじめに教室のスタッフですが、全ての学科目・講座が代替わりして次のようなメンバーと担当科目(主なもの)で運営しています。

松下 清子：ダンス、体育測定評価

小山 秀哉：テニス、保健体育科教育法

(現在附小校長を兼任)

佐藤 光毅：体操、器械運動、運動生理

学

麓 信義：サッカー、体育心理学

(現在ペンシルバニアステ

イトユニバーシティへ在外

研究員として留学中、九月

まで不在)

本間 正行：バスケットボール、体育原

理、体育史

清水 紀人：器械運動、体育経営管理学

戸塚 学：スキー、運動生理学

までと明らかに異なることは、水泳の臨

海実習が西郡岩崎海岸に場所を変更、ス

キーIIの八甲田ツアースキーは、大鰐に

おいてゲレンデにおける更なる技術向上

と、八甲田の名残としてシールをつけてのゴルフ場経由アジャラ山頂へのツアースキーに変更、スケートは実施していないことの三件です。

スポーツ施設は第二体育館、プールに屋根がかかったなど、幾分改善されてはきましたが、まだまだみすばらしい状態です。

特筆されることは、本年度、各方面のご支援ご指導のもと待望の大学院が発令として発足したことです。大学院生は二名おり、一期生としてプライドを持って頑張っています。

ところで教育現場における若い教員への期待は、特に小学校にあつては、体育的側面の実践力にかかっていると思われませんが、就職関係の就職状況は主専副専共にきびしい状況にあります。若い援軍をどしどし送りたいとは思っておりますが、現職にある方々には加齢に伴う体力低下とは逆に、ますます老体に鞭打って頑張ってもらわなければならぬようです。

益々お元氣でご活躍下さい。

各科教室だより その2

看護学科教室だより

教室委員 阿部 テル子

卒業生の皆様、如何お過ごしですか？

教育学部に看護教員養成課程が設置されてから今春三月末で満二十七年になります。卒業生は三七五名になります。約三十年間を振り返り、現在の教室の様子をお伝えします。

教育学部会計係前の階段を昇った四階は、以前看護科の研究室、実習室、図書室があった所です。昭和五十三年以前の卒業生にとっては喜びも涙も一杯詰まっている思い出の場所だと思えます。廊下の突き当たりのペランダからは岩木山が特別美しく見え、よく記念撮影の場所になりました。カメラマンは多くの場合、津島律先生だったでしょう。今、この場所には看護実習室、実験室があるだけで、研究室、図書室はその後増築された校舎の三階に移転しました。

当時、教室および「特看」教育の基礎作りに御尽力なさったのは小見山喜八郎、吉田時子、吉武香代子、工藤高道、その他多くの先生方でした。

昭和五十三年以降、研究室は前述の三階に移転し、川上澄、今充両教授を中心に教育、研究指導が強化されました。両教授は教室、学生、看護教育に深い愛情をお持ちで、その発展と充実を強く願い、教官、学生を叱咤激励しながら、学生が名実ともに大学教育としての看護教育を受けられるように、その環境整備に常に努力しておられました。高校衛看における看護教育は、その基礎に看護に関する深い専門的知識、技術を必要とするものであり、その為には学部教育の質を高めなければならぬと考えておられたのです。「特看は特別だから」という評価が、良い意味にも悪い意味にも使われていた中で、学生も教官と共に努力した時代でした。

今、我が国の看護教育は急激な変化の時を迎え、教育の形と内容を整えつつあると言えましょう。その中で、衛看教員の養成を目的とした「特看」は、当課程と熊本大学の二大学だけとなり、社会的使命は一層大きくなったと考えています。教室では社会の要請に応えるべく、福島松郎、黒江清郎、大串靖子の三教授を中心に、教育の充実に努力しているところです。

最後に皆様のご活躍を期待致します。

平成六年度

定時総会報告

平成六年度弘前大学教育学部同窓会定時総会は、新緑の候である六月四日(土)午後二時より、水野裕名誉会長、木村清之助会長をはじめ、役員・各支部長・評議員合わせて計三十六名の出席のもと、弘前プラザホテルにおいて開催された。

総会は高岡實議長(弘前・中郡支部)により円滑に進められた。任期満了にともなう会長の選出では、木村会長が満場一致で再選され、また、庶務・会計報告では、大学院設置にともなう対策費の修正があっただけで、五年度決算・六年度予算ともスムーズに承認された。

続いて行われた懇親会では、来賓としてお招きした谷崎與悦百石町教育長、玉川勝義福地村教育長を交え、各支部の活動の様子等、情報交換に花が咲き、終始なごやかな雰囲気での幕を閉じた。

庶務報告

- 5.5.29 平成5年度総会(大和家)
- 5.7.26 同窓会費納入依頼(1)
- 5.9.7 教育実習反省会
- 5.11.26 同窓会費納入依頼(2)
- 5.12.14 県教育委員会定例懇談会
- 6.3.8 会報「あすなろ15号」発行
- 6.3.10 同窓会費納入依頼(3)
- 6.3.20 弘前大学卒業式・祝賀会
- 6.4.28 事務局打ち合わせ
- 6.5.9 平成6年度総会案内状発送
- 6.5.31 会計監査

☆教育学部(厚生係・会計係)との事務連絡は随時

平成5年度収支決算報告書

(5.4.1~6.3.31)

○収入の部		5年度予算	5年度決算	備考
終身会費	4,950,000	5,369,035	15,000×73 14,890×276	
繰越金	274,720	274,720	14,890×276	
雑収入	5,000	11,456	利子	
計	5,229,720	5,655,211		

○支出の部		5年度予算	5年度決算	備考
総会費	150,000	125,000		
評議会費	150,000	95,000	旅費含む	
支部活動費	500,000	500,000	50,000×10	
会費徴収費	20,000	12,000	会費納入チラシ	
通信費	50,000	87,300	督促状その他	
就職対策費	700,000	700,000	大学50万県教委20万	
教生対策費	250,000	250,000		
大学院対策費	2,000,000	2,000,000		
特別指導費	200,000	193,500		
祝儀	150,000	120,000	卒業祝賀会他	
会報	200,000	206,210	あすなろ15号	
新会員名簿印刷費	80,000	120,600		
基金	500,000	500,000	みちのく銀行	
事務費	200,000	200,000	事務謝礼他	
雑費	79,720	5,700	職員録	
計	5,229,720	5,115,310		

繰越金 539,901円

平成6年度予算書

(6.4.1~7.3.31)

○収入の部		5年度決算	6年度予算	備考
終身会費	5,369,035	4,800,000	15,000×320	
繰越金	274,720	539,901		
雑収入	11,456	10,000	利子	
計	5,655,211	5,349,901		

○支出の部		5年度決算	6年度予算	備考
総会費	125,000	150,000		
評議会費	95,000	150,000	旅費含む	
支部活動費	500,000	500,000	50,000×10	
会費徴収費	12,000	20,000	会費納入チラシ	
通信費	87,300	100,000	督促状その他	
就職対策費	700,000	700,000	大学50万県教委20万	
教生対策費	250,000	250,000		
大学院対策費	2,000,000	1,300,000		
特別指導費	193,500	200,000		
祝儀	120,000	150,000	卒業祝賀会他	
会報	206,210	250,000	あすなろ16号	
新会員名簿印刷費	120,600	150,000		
基金	500,000	1,200,000		
事務費	200,000	200,000	事務謝礼他	
雑費	5,700	29,901		
計	5,115,310	5,349,901		

※ 特別会計基金(1年定期預金)

青森銀行	みちのく銀行
7,797,832	6,017,755
+240,219(利息)	163,833(利息)
	+500,000(今年度基金)
合計 8,038,051	合計 6,681,588

事業計画

1. 総会
2. 県教育委員会との懇談
3. 会報「あすなろ16号」発行
4. 弘前大学 卒業式・祝賀会
5. 教育実習反省会
6. その他

平成六年度役員

名誉会長

水野 裕

(弘前大学教育学部長)

顧問

齋藤 善三(弘前市)
太田 薫(弘前市)

会長

木村清之助(弘前市)

副会長

笹 良夫(青森東中)
中居 貞夫(八戸長者中)

竹内 照明(木造中)
杉山 芬(青森市)
工藤 睦男(弘前大学)

会計・監査

猪狩 清一(青森市)
塩原 鉄郎(弘前大学)

支部長

1. 弘前・中郡支部

野呂 恙二(弘前市)

2. 黒石・南郡支部

盛 皓(藤崎中)

3. 五所川原・北郡支部

藤田 信範(金木南中)

4. 西郡支部

藤田 讓(森田中)

5. 青森・東郡支部

嶋津宏一郎(青森南中)

6. 八戸・三戸郡支部

新山 徹(八戸下長小)

7. 三沢・十和田・上北郡支部

山田 誠司(下田中)

8. むつ・下北郡支部

中坪 裕

9. 弘前大学教育学部支部

山本 正(弘前大学)

10. その他の地区支部

評議員

1. 弘前・中郡支部

工藤 哲平(弘前市)

赤石 和夫(東小)

小野 禎亮(弘前市)

佐々木利直(和徳小)

今泉 徹三(弘前五中)

笹森 義男(弘前市教委)

高岡 實(弘前市)

鈴木 弘(弘前三中)

福島 一誠(相馬中)

2. 黒石・南郡支部

土岐 和正(六郷中)

佐藤 剛(大鰐中)

飯塚 洋(尾上中)

笠川 信明(碓ヶ関中)

高木 了司(上十川小)

川村 拓(田舎館小)

木村 光男(平賀東小)

北畠 昭智(浪岡北小)

3. 五所川原・北郡支部

浅見 則明(栄小)

佐藤 常義(菖蒲川小)

北沢アキ子(鶴ヶ岡小)

山内 隆(牛潟小)

神 修治(鶴田町)

小笠原俊亮(鶴田中)

4. 西郡支部

千葉 良一

(弘前市紺屋町一五二)

三上健之助(柏小)

飯田 正志(岩崎中)

加藤 修司(森田小)

葛西 英之(車力小)

高橋 秀一

(木造町浮巢九一三)

斎藤 守(木造中)

5. 青森・東郡支部

沼沢 武志(堤小)

小松 喆(今別小)

大坂 浩昭(沖館中)

秋元 毅一(青森市)

山口 茂樹(青森市)

石戸 励(青森市)

高橋 裕(青森市)

川原田満有(青森市)

横田 良雄(五戸中)

7. 三沢・十和田・上北郡支部

吉田 信也(三沢三中)

鳳至 吉夫(平沼中)

高橋 俊夫(蒔坂小)

千葉 治昭(元乙供中)

佐藤 久東(前十和中)

葛西 紀一(三沢市教委)

立崎 庸夫(三沢高)

菊池 良久(七戸中)

大久保忠昭(十和田中)

8. むつ・下北郡支部

畑中 盛(関根中)

後藤 勲(大畑中)

瀬川 一雄(正津川小)

伴 良治

(第二田名部小)

永井 信孝(関根小)

9. 大学教育学部支部

清藤 紀子(附属中)

赤田 晴美(附属幼)

葛西ゆう子(附属養護)

丹藤 進(教育)

佐藤 法生(附属小)

常任委員

工藤 光男(石川中)

相馬 正栄(弘前三中)

伊藤 學(附属中)

葛西 一誠(弘前三中)